

コニカミノルタグループ 平成 21 年(2009 年)3 月期 第 1 四半期 決算説明会 主な質問と回答

日時: 2008年8月7日(木)16:30~17:30

場所: 経団連会館 国際会議場

対応者: 常務執行役 山名 昌衛

〃 松本 泰男

<ご留意事項>

この資料は、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、この資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

■ 情報機器事業関連

Q: 情報機器事業の第1四半期業績は計画に対しても若干の未達ようですが、第2期以降では通期業績予想の達成に向けてどの様な施策を展開していくのでしょうか。

A: 第1四半期は、MFP(多機能複写機)の収益の源泉となるノンハード売上は主要 5 販社合計で前期比+7%と想定レベルで推移、またカラーMFP の販売台数も前期比+24%と大きく伸長しました。一方、米国で Seg4 以上(出カスピード毎分 41 枚以上)のモノクロ機の販売が想定を下回り、計画未達の大きな要因となりました。この対応策としては第 1 四半期に bizhub 501(毎分 50 枚)を発売、更に下期にかけて高速モノクロ MFP の新製品を 2 機種投入予定であり、販売拡大による挽回を図りたいと考えています。

またカラーMFP についても、オフィス分野では戦略的な新製品を第2四半期に発売予定で欧州やアジア地域での販売拡大を狙います。更に成長分野のプロダクションプリント分野でも新製品 bizhub PRO C6501/C5501(カラー、モノクロ共に毎分 65 枚/55 枚)をこの 8 月に発売し第2四半期のカラーMFP 販売台数を前期比+30%超まで引き上げたいと考えています。

加えて、原材料が高騰している現状況下において、全社レベルでの経費構造の見直しを図るべく、固定費削減のアクションプランを推進しており、第 2 四半期以降の業績に反映させていきたいと考えています。

Q: 説明会資料 6 ページの「情報機器事業の減益要因」にて「新規連結による費用増 25 億円」とありますがこれはダンカオフィスイメージング社買収に伴う費用増加のことでしょうか。

A: 新規連結による前期比 25 億円の費用増の主な内容は、昨年度の後半に実施したドイツ及び米国でのディーラー買収、並びにロシアなどの販売会社設立によるものです。なお、ダンカオフィスイメージング社の買収手続きは 6 月末に完了しましたが、この第1四半期の費用増加のうち、セールスマン増員やサービスマンのトレーニング費用などの先行投資として約 2 億円を計上しております。

Q: 上期および通期業績予想は前回公表値から変更されていないようですが、ダンカオフィスイメージング社の買収手続き完了にともなう業績予想の変更はないのでしょうか。

A: ダンカオフィスイメージング社の買収に関しては、上記の先行投資などにより早期の業績貢献を目指しており、1四半期あたり約100億円程度の売上を見込んでおります。ただし、米国の景況悪化にともなう先行きの不透明感などもあることから、現時点では業績予想には織り込まず、中間期の業績を踏まえて下期業績予想時に修正をする予定としております。
既存のダンカオフィスイメージング社の顧客に対して当社のMFP販売拡大による利益創出が期待できる一方、買収にともなうのれん代償却やその他の費用発生もあり、買収初年度としては営業利益への貢献は見込んでおりません。

■ オプト事業関連

Q: オプト事業の第1四半期はTACフィルム、光ピックアップレンズ、ガラスハードディスク基板などの主力事業がいずれも好調でしたが、第2四半期以降はTACフィルムやガラスハードディスク基板で最終製品の生産調整があるのではないかとの見方もありますが、それぞれどのような見直しをお持ちでしょうか。

A: TACフィルムに関しては、第2四半期も第1四半期同様に好調を維持できるものと考えています。下期における競争激化にともなう価格や数量への影響を計画段階では既に織り込んでおりますが、足元では歩留まりの向上やコストダウン施策による成果が着実に表れており、好調なモメンタムは引き続き維持できるものと考えております。
ピックアップレンズに関しては、拡大基調のブルーレイ用がこの第1四半期に続き第2四半期、下期ともに大きな成長を見込んでいます。ブルーレイ用ピックアップレンズに関しては生産技術、量産技術ともに高い参入障壁があり、当面は当社の圧倒的な市場ポジションが維持されるものと考えています。
ガラスハードディスク基板に関しては、第1四半期は非常に好調であり、マレーシア新工場での能力増強も順調に進んでおります。第2四半期以降にはパソコンなどの生産調整の見方もあるようですが、2.5インチのガラス基板を主体とする当社においては、現時点では大きなネガティブ影響は想定しておりません。

以上